

Special Interview

日本の誇るべき宝 明治日本の産業革命遺産

橋野鉄鉱山や官営八幡製鐵所など、製鉄・製鋼に関する資産を含む「明治日本の産業革命遺産」が、2015年7月にユネスコの世界遺産に登録された。内閣官房参与として推進役を務めた産業遺産国民会議・加藤康子専務理事に、登録の経緯や意義についてお話を伺った。

日本の近代化に貢献した遺産群を 1つのストーリーでつなぐ

— 今回の世界遺産登録のきっかけを教えてください。

加藤 私が1999年に、産業遺産の保存と活用による世界各地のまちづくり事例を紹介した『産業遺産』（日本経済新聞社）を出版したとき、薩摩藩・島津家の末裔である島津公保さんが書評を読んで、「集成館を世界遺産にしたい」と訪ねていらっしゃいました。



内閣官房参与
一般財団法人産業遺産国民会議 専務理事
加藤 康子氏

そこでアイアンブリッジ溪谷などを世界遺産登録に導いたスチュワード・スミス先生に来日していただきました。鹿児島だけでなく北九州、長崎をご案内して「世界遺産になれますか」と尋ねました。「単独では難しいが、各地の資産を日本の近代化に貢献した遺産群という1つのストーリーにして、数珠のようにつなげていくシリアルミネーションという手法であれば、世界遺産となる可能性がある」と助言していただきました。ここから産業国家としての礎を築いた遺産群を1つにまとめる模索が始まりました。

— 登録に向け、支援の輪が広がっていききました。

加藤 一人がやれることは何もなく、私は大海の一滴にすぎません。応援していただける方々がいなかったら、とてもたどり着けませんでした。

新日本製鐵（現在の新日鐵住金）の今井敬名誉会長に「ぜひ八幡製鐵所を」と初めてお伺いしたときには、きっぱりと断られました。しかし、その後も現状報告を兼ねて足繁くお伺いし、「鉄は国家なり。これは今井さんの人生そのものではありませんか」とお願いしたこともありました。実は今井名誉会長も心の中で、このストーリーの価値をご理解いただいていたようでした。

その間、政府が動いてくれたのもありがたいことでした。文化庁の文化審議会とは別に、内閣官房に有識者会議が設けられました。所管が変わることは画期的なことでした。今井名誉会長にも「これなら大丈夫」と信頼していただき、産業遺産国民会議の名誉会長に就任していただくことができました。

改善・改良は日本のものづくりの原点

— なぜ文化庁から内閣官房に所管が変わったことがターニングポイントとなったのでしょうか。

加藤 文化財保護法では、現役の産業設備であっても許可を得なければ釘1本、ネジ1本替えることはできません。建物の現状変更が制限されるため、生産に支障をきたす恐れがあるからです。これでは産業活動はできません。ものづくりの現場の皆さんが「安全が守れない」と思うのは当然です。所管が内閣官房に変わったことで、資産所有者や作業現場が保全に参加しやすい仕組みとなりました。

八幡製鐵所や三菱重工業長崎造船所では、100年前に設置されたクレーンなどが今も稼働しています。それは毎日担当者がメンテ

ナンスしているからです。現場の皆さんがものづくりをしながら技術を継承していくことが重要であり、誇りを持って自分たちが守っていくことにこそ価値があります。

— ものづくりの現場に先人たちの知恵が息づいているわけですね。

加藤 そうです。官営八幡製鐵所創業時の東田第一高炉は、ドイツの技術を導入したものの、当初は順調に稼働できず、設計変更を余儀なくされました。しかし現場の人たちは炎の色や温度などから、鉄づくりの本質を熟知していました。優秀な技術者と、能力の高い作業員の技や知恵が現場で活かされ、生産技術の改善・改良につながったわけです。改善・改良は日本のものづくりの原点と言えます。ここが日本のすばらしさだと思います。

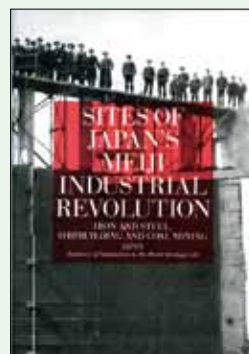
明治日本の産業革命が 日本の未来を切り拓く

— 16年間多くの人たちと活動し、ついに長年の夢が かないました。

加藤 8エリア23構成資産の皆さんの想いをつなぐことができ、大変うれしく感じています。それぞれの地域で産業を支えてきた人たちにとって、今回登録された資産は誇りです。しかしながら海外から日本を見ると、日本人はプライドが希薄です。日本人の誇りとは何だろうと考え、それは明治日本の産業革命を基盤に、現代の日本をつくってきたことだと思います。その歴史を日本の若者たちにきちんと理解してもらいたい。そうすれば日本人に生まれてよかったと心から思えるようになるはずです。

幕末の志士は西洋科学へ手探りで挑戦し、開国と共に産業国家を志し、それからわずか半世紀。技術を積極的に取り入れ、人を育て、システムをつくり、改善・改良を重ね、今の日本の土台をつくってきました。わが国は明治に非西洋地域で初めて、かつ極めて短期間のうちに飛躍的な発展を遂げました。この点において、明治日本の産業革命は世界史的にも特筆されるべきものです。今回の登録にあたり、多くの国々から「だからこそアジアの小さな島国がこれだけの発展を遂げることができたのだ」と共感を呼びました。なかでも日本の鉄鋼業がすばらしいところは、産業革命が現在進行形であることです。

近年、日本の製造業が海外に進出しています。マーケットに近いところで生産するため、まず組立工場、次に部品工場、最後にインフラ輸出と共に素材産業が進出していきます。海外に技術が移転されると、日本国内でのものづくりの空洞化が危惧されます。今回の世界文化遺産への登録をきっかけに、ものづくり立国の精神を次の世代に語り継ぎ、高度な技術を保持し、これからも日本の未来を切り拓いてほしいと願っています。



2,000ページに及ぶ英文の推薦書を作成した加藤氏は「鉄鋼メーカーや重工業メーカーの皆さんと共に、まとめることができました。皆さんの情熱と知見なくして、この推薦書は完成しませんでした」と振り返る。

■「明治日本の産業革命遺産」構成資産分布

エリア	サイト	構成資産
秋	秋の産業化初期の遺産群	萩反射炉 恵美須ヶ鼻造船所跡 大板山たたら製鉄遺跡 萩城下町 松下村塾
鹿児島	旧集成館	旧集成館 寺山炭窯跡 関吉の疏水溝
釜山	釜山反射炉	釜山反射炉
釜石	橋野鉄鉱山	橋野鉄鉱山
佐賀	三重津海軍所跡	三重津海軍所跡
長崎	長崎造船所	小菅修船場跡 三菱長崎造船所第三船渠 三菱長崎造船所ジャイアント・カンチレバークレーン 三菱長崎造船所旧木型場 三菱長崎造船所占勝閣
	高島炭鉱	高島炭坑 端島炭坑
	旧グラバー住宅	旧グラバー住宅
三池	三池炭鉱・三池港	三池炭鉱・三池港
	三角西港	三角西港
八幡	官営八幡製鐵所	官営八幡製鐵所 遠賀川水源ポンプ室

